令和４年２月２８日

# 令和３年度第３回　立川市立第三小学校学校運営協議会　次第

【日時】　令和４年２月２８日（月）　９：３０～１１：３０

【場所】　立川市立第三小学校　北校舎１階　家庭科室

【次第】

１　３学期の授業や行事の様子から
２　各種調査やテストの結果から
３　学校評価アンケートの結果から
　　「第３回学校運営協議会資料」へ

４　令和４年度学校経営方針・教育課程　⇒　「令和４年度教育課程１～４表」へ

５　その他

【委員の方々からのご意見・ご感想、ご質問等】

| | |
|---|---|
| ・「委員」…学校運営協議会委員６名（１名欠席）それぞれから | ・「学校」…校長、副校長、中村 |

「１　３学期の授業や行事の様子から　～　３　学校評価アンケートの結果から」について

体力テスト

委員：コロナ禍にあって、Ｈ３１年度と比べても大きくは落ち込まなかったのは成果として見るべき。テスト種目はどのようなものがあるのか？

学校：俊敏性や柔軟性、持久力、投力などを試すもの全部で６種目ある。

委員：最近は投げるという動きが、日常から少なくなってきて久しい。何か工夫は？

学校：体力テスト前になると、低学年を中心に１～２回は練習の時間を取って本番に臨むようにしている。中には、投げ方を全く知らない子もいるので、少しでも体験してもらうことは重要だと捉えている。ただ、昨年度までの３年間、体育の授業実践を研究したことを生かし、本番前に回数を重ね過ぎて、トレーニングを強いるように受け止められないよう配慮している。

英検ＥＳＧ

委員：この結果はすごいこと。外国語を教える先生も喜んだのではないか。主な要因は？

学校：取組の大きな成果として捉えている。日頃、教科担任制の一部として外国語専科を中心に行っている授業はもちろんだが、「小中連携外国語」では、三中の先生方も多大なるご協力をいただいたことも要因のひとつである。

委員：ＨＰで子供たちがＴＧＧで楽しみながら学ぶ様子が載っていて、印象に残っている。

学校：ＴＧＧでの体験も大きい。令和４年度の後半には、立川にＴＧＧができると聞いている。そうすると、利便性もよくなり、とても身近に感じることができる。また、今年度までの「６年校外学習」はＴＧＧと国会見学を組み合わせていたため、時間的な制限が多くて「じっくり体験を」とはいかない面があった。しかし、来年度以降は、ＴＧＧと国会見学を別日程で組むことができるので、見学先も一つ増やせる。

ＱＵテスト

委員：子供を見守るひとつの材料として活用しているとのことだが、どのように活用しているのか。

学校：第１・２回とも、結果が戻ってきたら「①担任・管理職がそれぞれ確認　⇒　②ＳＣと特別支援コーディネーターで学級・学年ごとに分析・まとめ　⇒　③各学年担任・ＳＣ・特別支援コーディネーターで学級や学年の傾向を共有（要支援の子がいる場合は支援方法を検討）　⇒　④学級・学年担任を中心に支援や見守りに役立てる」という流れで行ってきた。

委員：ＱＵテストの結果を個々に見ると、担任の先生や学校から見て意外な結果が出た子はいるか。

学校：２回とも、学校全体で要支援群に位置する子が何名かずついた。今まで本校では実施してこなかったので、児童個々をより多面的にとらえることができる有用な情報である。支援や見守りにしっかりと生かしていきたい。

委員：そのような方向性であれば、保護者に情報を共有してもいい気がするが。

学校：保護者と情報を共有することでプラスの面も想定できるが、現段階で市教委からそういう話は出ていない。

学校評価アンケート

委員：（児童アンケートの⑭「中学校との違い不安」について）不安に思う子が減ってきているのは、い

いことだ。
学校：コロナ禍でも連携行事をできる範囲で実施できたことや、外国語の授業で密に連携を図ったことの成果だと捉えている。
委員：（保護者アンケートの⑮「教科担任制」について）「わからない」がこれだけ多いのは、「教科担任制」という言葉が浸透していないか、理解されていないか、どちらかに原因があることも考えられる。
学校：そういうこともあり得る。「教科担任制」がどういうものなのか、従来とどこが違うのか等、学校だよりやＨＰで年度当初から丁寧に発信しなくてはいけないと痛感している。
委員：年間を通して４～６年生、３学期には３年生でも教科担任制を導入したとのことだから、高学年に限らずに低学年の親にも発信をした方がいいのでは。
学校：その通りで、当該学年になってからではなく、全学年の保護者に情報発信をしていくつもりである。例えば、ＨＰ上に大きく「教科担任制ページ」のようにするなど、考案中である。今年度（令和３年度）から教科担任制を校内研究でも取り組んでいるので、効果的な情報発信を心がけていく。
委員：（保護者アンケートの回収率が落ち込んだことについて）保護者がアンケートの通知文を見るタイミングやクロームブックを児童が持ち帰るタイミングも、回収率には大きく影響するのではないか。
学校：それらのことも十分に配慮した上で保護者の皆様にお願いするべきだったが、今回は不十分であった。アンケートに答える側とまとめる側の手間や、世間で求められている「ペーパーレス」も踏まえてクロームブック活用を選択した。しかし、公立学校は特に、なるべく多くの保護者の声を教育活動に反映する必要がある。来年度は回収率アップを最優先に紙ベースでのアンケートに戻すことも含めて検討していく。

「４　令和４年度学校経営方針・教育課程」について

学校経営方針

委員：今年度と比べて、大きな変更点はないということでいいか。
学校：その通りである。立川市全体では、以前からこの会議でもお伝えしているように「立川市民科」が教科になるという点が大きな変更点で、来年度の教育課程にも各所に反映してある。

教育課程

委員：「立川市民科が教科に」ということだが、教育課程で具体的に表れているところは？
学校：一番わかりやすいのは「第３表」である。各学年の総合や生活の一部の時数を市民科に引っ張ってきている形になっている。１・２年は１５時間、３～６年は３５時間の中で立川市民科の目的である「主体的に考え行動する市民の育成」に迫る学習活動を実施していくことになる。
委員：第４表を見ると、始業式や終業式の日にも給食を食べることになっている日があるが、最近ではよくあることなのか。
学校：毎回ではないが、年に何回かは入れざるを得ない日がある。それは市教委から給食回数の指示が出ているためである。
委員：給食回数は市で統一されているのか。また、それは何回か。
学校：立川市立小学校は１９５回で統一されている。
委員：うちみたいな自校方式とセンター方式の学校と、違いはあるのか。
学校：どちらも１９５回で統一されている。
委員：ところで、三小がセンター方式の給食に切り替わるのはいつか。調理している現場や調理をしている人との触れ合いがなくなるのはさみしい。
委員：たしかに、三小の子供のことを考えるともったいない。